

【グラントステージ川崎大師】

建物調査工事

報 告 書

= はつり調査による検証 =

平成18年6月

社団法人 日本非破壊検査工業会

〔はつり調査による検証〕

1. 調査目的

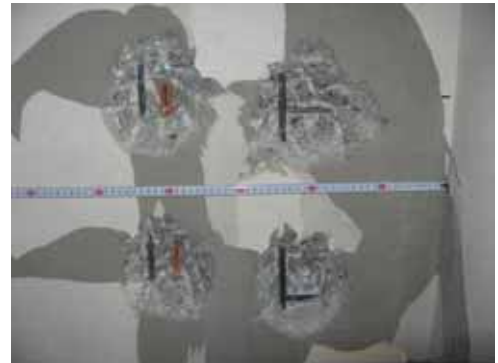
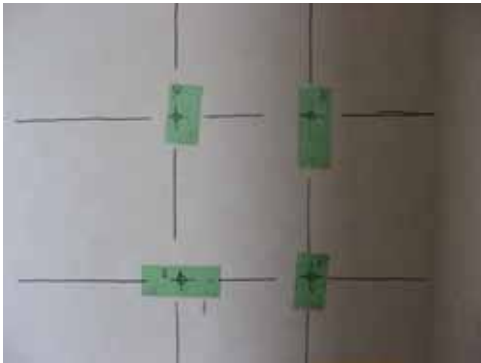
グランドステージ川崎大師における主要な部位について、建物調査に適用する非破壊検査の技量の向上、技法の改良を目的として、はつり(破壊)調査による検証を行いました。

2. 調査対象部位

1 F 平面 地中梁：C通り - 間西側(駐車場)



2 F 側面 壁：C通り - 間西側(202号室)



6 F 側面 柱：C6柱南面(602号室)



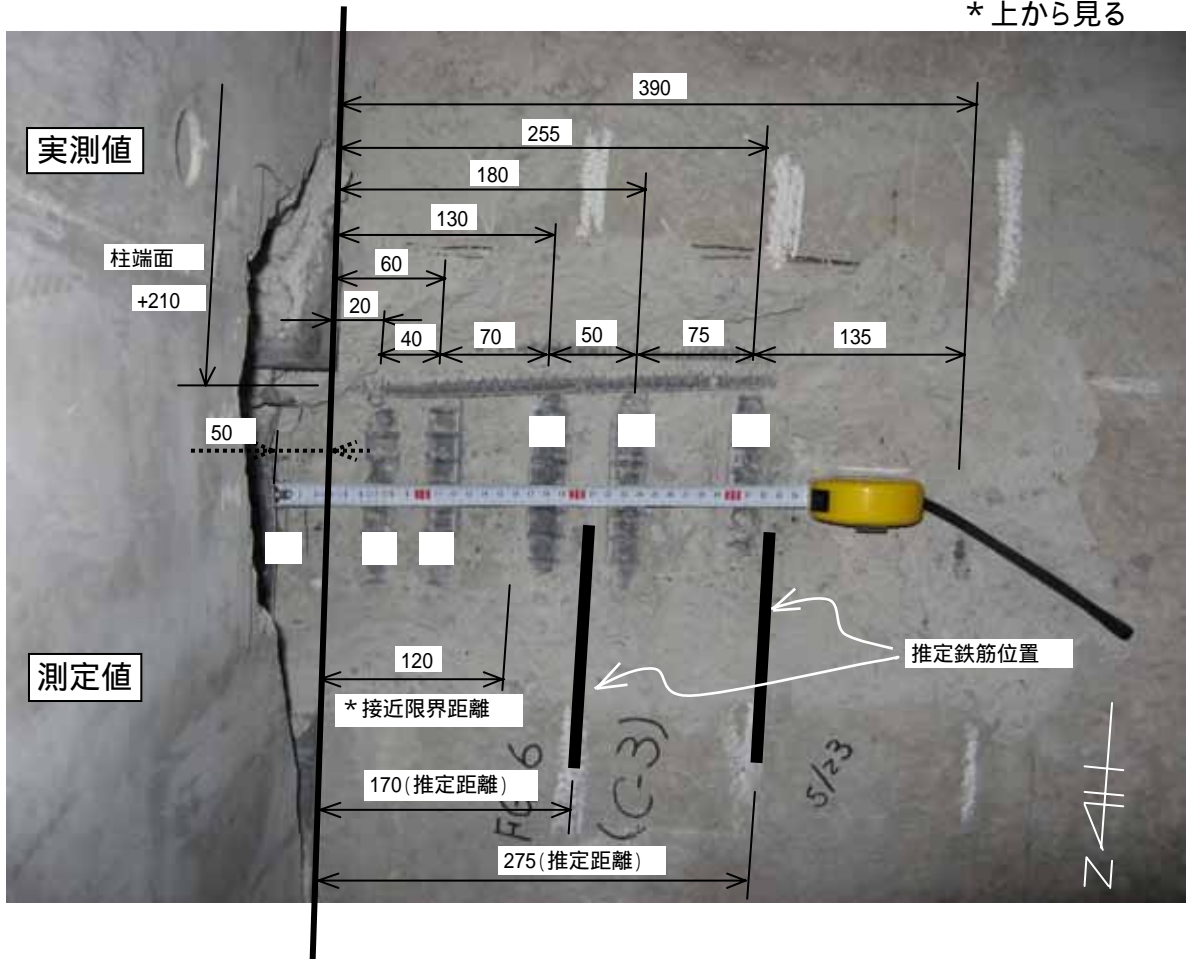
3. 調査結果

次頁参照

はつり調査による検証(その1)

(電磁波レーダ方式)

* 上から見る



比較データ

探査位置	No.	かぶり(深さ)	
		測定値	実測値
C通り		59 *	70
- 間		61 *	70
地中梁		接近限界	70
[FG6]		範囲内	70
		測定不可	70

注) *: 2箇所 の 平均値 を 表示

はつり調査による検証（その１）

〔追加報告〕

平成18年5月24日

報道各位

(社)日本非破壊検査工業会

「グランドステージ川崎大師」の建物調査工事について

〔追加報告〕

「グランドステージ川崎大師」建物調査工事については、当該マンション管理組合様のご了解の下に実施し、その調査結果は去る平成18年5月20日に、管理組合の皆様および報道各社を対象に報告させていただきました。

その報告において、配筋調査の結果、構造伏図の1階C通り - 間の地中梁[FG6]について設計図書と照合不一致の疑いがあると説明し、当工業会では当該部分の重要性を認識し、早急な検証が必要と考えました。そこで、管理組合様のご了解を得て、急遽、昨日(5/23)10時頃より、ハツリ(破壊)調査を実施し、その検証結果が、当日の11時30分頃に判明しましたので報告させていただきます。

〔検証調査結果〕

検証調査として当該地中梁[FG6]について、ハツリ(破壊)調査を行った結果、設計図書記載とおりの配筋であることが確認され、照合不一致ではありませんでした。

本(非破壊)調査では、電磁波レーダ法による鉄筋探査装置を用いて実施し、今回ハツリ(破壊)調査直前にも実施しましたが、探査の波形データは同様でした。

本調査と検証の結果に相違が生じた主原因は、当該鉄筋(鉄筋径25)の配筋間隔(中芯間)が約50mm(実質空きが約20mm)と狭い上、かぶりが約70mmと深く、探傷限界*であったため、2本の鉄筋を1本として探査したことによります。

*探傷限界：表面方向・80mm以上の間隔(鉄筋径10のものが深さ60mmにある場合)

以上の検証結果などにより、当該地中梁[FG6]については、設計図書とおりの鉄筋が配筋されていることが確認され、この部位が建物に及ぼす悪影響はないと思量されます。

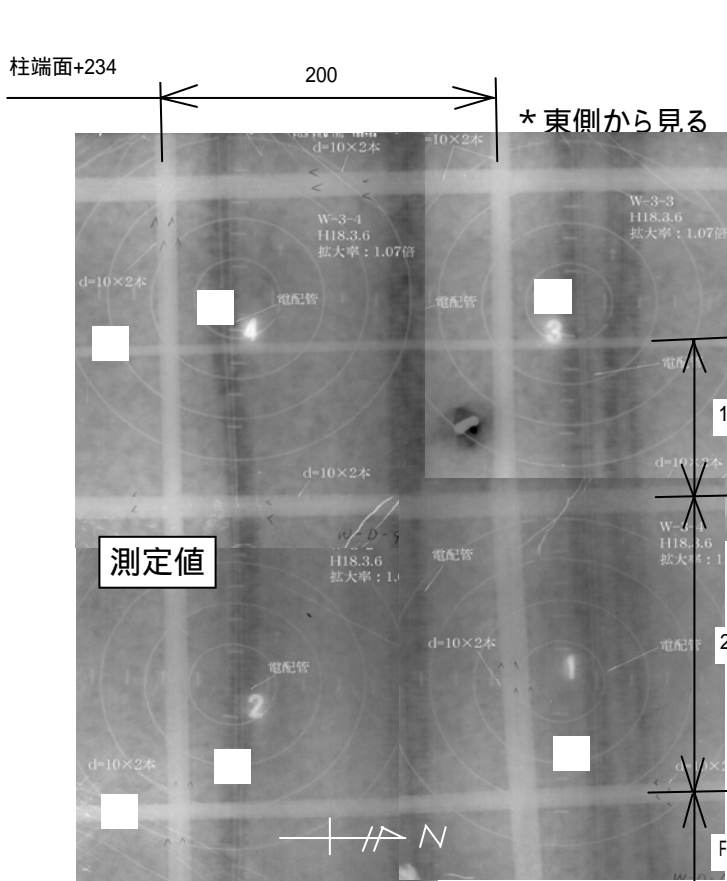
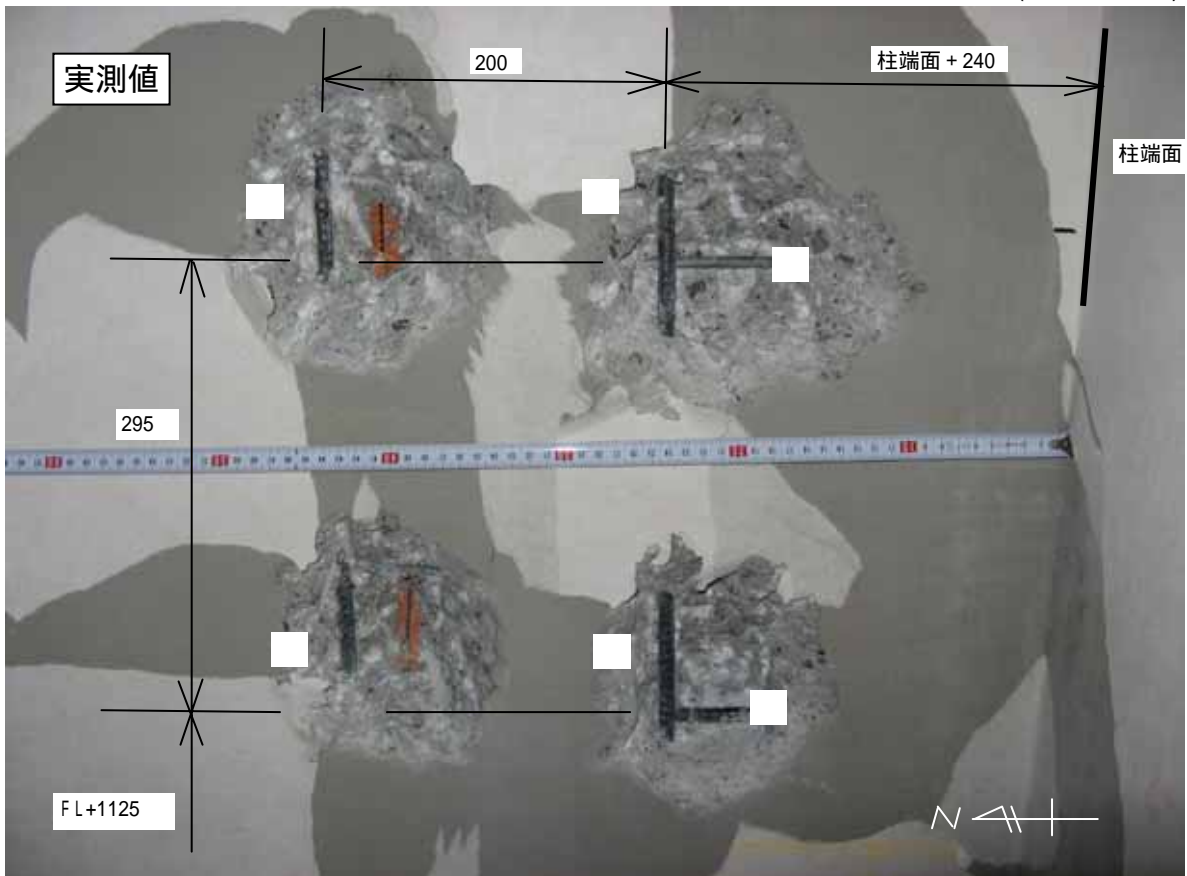
当工業会は、今後検証などを続け、調査方法、技法・技量の向上、改良に努めていく所存ですので、皆様のより一層のご理解、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

以上

はつり調査による検証(その2)

(X線撮影方式)

* 西側から見る(撮影反対側)



比較データ

探査位置	No.	鉄筋径	
		推定値	実測値
202号室		D10	D10
C通り		D10	D10
W-D-1 ~ 4		D10	D10
壁		-	D6
		D10	D10

はつり調査による検証(その3)

(電磁波レーダ法・電磁誘導法)

* 南側から見る



比較データ

探査位置	No.	電磁波レーダ法	
		かぶり(深さ)	
		推定値	実測値
602号室 C6-南 柱		67	80
		60	72
		54	55
		49	48
		55	53

